



学薬のひろば



Vol.006

新年明けましておめでとうございます。

学薬会員の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことお慶び申し上げます。役員一同、本年も学薬活動の充実に取り組んで行く所存でございます故、ご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

昨年は、「薬剤師のための薬物乱用防止研修会」名古屋大会の開催にご尽力を戴き、かつ、県内外から多数ご参加を戴いて、大会の内容共々、全国から好評を得ることが出来ました。また、各地で開催されました研究大会、研修会、協議会に積極的にご参加を戴きましたこと心からお礼申し上げます。とりわけ、山口市で開催の環境衛生・薬事衛生研究協議会では、愛知県学薬の木全理事が給食部会で、研究発表を行ったことを特筆させていただきます。なお、それぞれの大会の参加報告をこの広場に掲載しておりますのでご覧下さい。

新しい年に向かって、県学薬は学校薬剤師の活動の重点目標として、愛知県教委・名古屋市教委が実施宣言をしている「学校敷地内禁煙」運動に協力し、健康教育の面からの「薬物乱用防止」運動を推進したいと存じます。本来の学薬活動である環境衛生検査に加えて、学校薬剤師の社会的評価を一段と高めるチャンスであると確信しております。本年も宜しくお願ひいたします。



<愛知県学校薬剤師会会長 大橋伸旭>

【平成15年度 薬剤師のための薬物乱用防止研修会（名古屋大会）に参加して】

実行委員（半田市学校薬剤師会会長） 稲熊 和子

県内外より300名にも及ぶ薬剤師の参加を得て盛況な研修会となりました。健康増進法の施行を受け「禁煙」に対する関心の高さを再認識させられました。

トップバッターはおなじみの石川哲也先生で海外での薬物乱用の状況を詳しく講演していただきました。興味半分で伝えられているオランダの基準やハームリダクションあるいは感染症予防のための清潔な注射器の無償提供など、私たちにとっては不可解な程の実態を説明していただき、最後にいかに予防が大切なのかを力説されました。



ランチョンセミナーは循環器内科の医師の飯田真美先生の禁煙推進と防煙教育についての講演でした。中高生の喫煙経験者の増加、若い女性の喫煙率の増加等のお話には少しかっかりしましたし、“体によいタバコ”が市販されているという質問に漢方成分を入れることで健康に良いと表示しているがニコチン・タールは当然含まれています。医療従事者として様々な情報入手するだけでなくそれをかみ砕いて加工、更に発信することが大切・・・共感しました。

午後からの長野健一先生は麻薬取締官として平成9年に名古屋に在任されていたそうで日本の薬物の現況についてお話をいただきました。手軽な錠剤型が増えインターネット等で簡単に

入手したり、高校生など犯罪意識もなく友達に進められたり、やせ薬と信じて安易に使用するなど・・・教育不足を感じました。

岡崎、美川中学校の浅井君枝先生の熱意あふれる取り組みの発表には会場から「先生の学校には保健室登校の生徒はきついなと思います・・・」の声がありましたし、学校薬剤師への要望では今後の私たちの活動のあり方に大きなヒントを与えていただきました。

最後の県学薬理事、樋口光司先生は「僕の言いたいことみんな先に言われちゃったよ」と言われながらも、自分のことを大事だというだけでなく、ひとのことを大事だと思える感情で「私が好きで、あなたが好き」、人と関わりあう中で学んでいくことを心がけること・・・「セルフエスティーム」の形成が大切だとお話しされました。薬や健康食品の話からロールプレイングをしていくと小学生でもとても感激して聞いてくれたというお話では自分では小学校を長年担当していたにもかかわらず、まだ早すぎると考えてしまい何も取り組みをしてこなかったことを反省させられました。

中身の濃い充実した研修会でした。

【第53回 全国学校保健研究大会全体会】

名古屋市学校薬剤師会 水野 勉

表記の大会が去る11月6～7日に青森市文化会館にて開催されました。6日は早朝より名古屋を出発し、名古屋市学校薬剤師会6名の会員が曇空の青森へと向かい会場の青森市文化会館に無事到着、前夜より宿泊していた県学薬7名と合流しました。



午後から全体会が開催された。恒例の開会式に続き表彰式があり、各種業績のあった個人、団体の先生方が表彰状を授与されました。学校保健関係では学校薬剤師の部門で名古屋市学校薬剤師会より名古屋市立向陽高等学校 学校薬剤師・野村郁夫先生が映えある文部科学大臣表彰を受賞されました。

この後記念講演があり、第23回、第24回オリンピック95Kg 超級柔道の優勝者で現在国士舘大学体育学部助教授、全日本柔道連盟強化委員・強化ヘッドコーチである斉藤 仁氏により柔道を通して得られた人生訓を熱っぽく語られました。

斉藤氏は地元青森市の生まれで高校から東京へ出てスバラシイ教師、友達にめぐまれ人情、友情に支えられて辛い練習に耐え

られたこと、敵は試合の相手ではなく内なるもう一人の自分であること、試合が終われば相手はスバラシイ先輩であり友人でありこの人達に助けられ今の自分があると熱弁を振るわれました。

この講演にて初日の日程が終わり、翌日は第1から第10課題までの分科会が開かれました。

【第53回 全国学校保健研究大会分科会】

愛知県学校薬剤師会理事 酒井 廣三

青森での2日目、課題別研究協議会では第8課題「快適な学校環境づくりをめざす学校環境衛生活動の進め方」に参加した。

最初の研究発表は環境エコロジー活動への取り組みを通して、いかに学校環境衛生活動に生徒を積極的に参加させるかを工夫されたもので、こうした取り組みによって健康や環境衛生に対する意識の高揚と改善が図れればと思われた。

次は、「いのちの教育から環境教育」をテーマにホタルの飼育・放流活動を定着させることから、川の環境浄化の総合学習、実践へと展開、環境教育の成果を挙げた長崎県の小学校からの発表がありました。

地元青森からは、市内小中学校で実施したVOC（揮発性有機化合物）の調査結果の発表があり、冬季においても暖房により基準超過の可能性が否定できず継続して調査を進め実態を正確に把握していきたい旨の報告がなされました。

コーディネーターの武蔵野大学講師 村松先生からはエコスクールのパイロットモデル事業が公立学校を対象に全国規模で始められたこと、大改正の検討が進められている「学校環境衛生の基準」の課題として、

1. VOCとシックハウス問題 2. 教室の空気 3. 教室の温度分布 4. 学校給食 5. エコスクール等の項目が挙げられているとの報告があった。

最後に岐阜薬科大学 永瀬先生より室内空気汚染対策についての講義があり協議会を終了した。

【第53回 全国学校薬剤師大会】



11/7、第53回全国学校薬剤師大会が青森県青森市にて開催されました。開会式の後、表彰式で愛知県から養護教諭の野田明美先生、古田扶美子先生、鈴木くみ子先生の3名、名古屋市から市立金城小学校 養護教諭 大井紀子先生に杉下日学薬会長より日本学校薬剤師会感謝状が贈呈されました。その後、文部科学大臣表彰を受けられた受賞者への記念品贈呈の後、青森県教育庁文化財保護課 三内丸

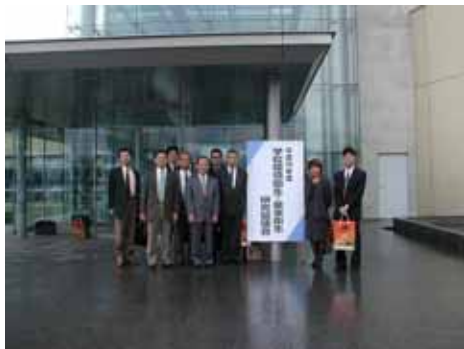


山遺跡対策室文化財保護総括主査 齋藤 岳

氏による「縄文時代の食文化 ~三内丸山遺跡からの発信~」というテーマで特別講演が行われました。縄文時代前期中葉から中期末葉にかけての日本最大級の集落跡と言うことでとても興味深いお話でした。また、懇親会では津軽三味線の演奏もあって和やかな雰囲気でした。

<三内丸山遺跡>

【平成15年度 学校環境衛生・薬事衛生研究協議会】



愛知県薬剤師会学校薬剤師部会部員 亀谷みどり

健康教育の充実を目的とする、学校環境衛生・薬事衛生研究協議会が11月13日、14日と山口県山口市で開かれましたので、1日目の全体会の報告をいたします。開会式に続き、講義1、講義2、特別講演がありました。

講義1は、「健康で快適な学校環境をめざして」という演題で学校環境衛生の管理について、文部科学省スポーツ・青少年局学校教育課の鬼頭先生のお話がありました。学校保健法の理解の仕方に続き、愛知県でもここ2年取り組んでいる、学校におけるシックハウス対策、その検査法等がていねいに語られました。

講義2は「アンチドーピング活動の推進」、国内におけるアンチドーピングの動向について同省青少年局競技スポーツ課の森岡先生の講義がなされました。ドーピングとは、競技物質、禁止方法を使用することであり、禁検体中に存在することです。ドーピングは、に反し、薬物の習慣性や副作用などによりなく、次代を担う青少年に対する悪影響であり、世界的に厳しく禁止されていておツの実現と発展のためには、アンチドーピングになっています。平成15年に静岡県で開催において、競技や記録の公平さを保ち、ア啓発活動を促進することを目的に、国体に技外検査を並行して導入・実施したところ薬剤師が知識として当然持ち合わせる必要



があり、問い合わせ等があった場合には指導ができる <瑠璃光寺五重塔>
ことを要求されると思われた講義でした。

特別講演は主催県山口の名士、松田松陰の意欲あるひとつくりのお話で、「今、松陰先生に学ぶ」を史都萩を愛する会会長の松田先生が語られました。松陰の人間観、「人間は生まれながらに善である」に、じっくり聴きいってる人ばかりでした。

全国各地からの参加者と山口県のスタッフで熱気のある会場の全体会でした。

【学校環境衛生・薬事衛生研究協議会 アンチドーピング部会に出席して】

名古屋市学校薬剤師会 水野 勉

山口での2日目、本年は5つの部会別分科会（研究協議）となりそれぞれ担当を決めて参加をしました。参加したアンチドーピング部会について簡単に報告する。

国際オリンピック委員会ではすでに導入しているが日本でも、日本体育協会は2003年の静岡国体からドーピング検査を導入した。ドーピングはスポーツ界の薬物乱用とも云われ今後厳正に対処しなければならない問題である。これがいけない理由は

スポーツマンシップに反する。薬物の副作用により健康を害する。薬物汚染として社会問題である。ことで、本来スポーツは自分の身体を鍛えて公正に能力を競うものである。この検査に反応する薬物とは興奮剤ばかりではなくて一般に使用されるカゼ薬、強壮剤等でも判定されることが多いので、「うっかりドーピング」に気を付けねばならない。例えばバッファリンAは使用可能だが、バッファリンエルは不可である。一部使用可能な薬剤もあるが、原則として協議会3日前までには全ての薬剤の服用を止めることが良い。また、治療目的使用の薬剤は事前に申請し許可されたものは使用可能であるが、申請は非常に複雑な手続きが必要である。（インシュリン、ぜんそく薬、一部の吸入剤等）

検査には、
競技会検査：競技種目の前後8時間以内に行われる検査。

競技外検査：練習場等に出向いて行われる検査

がありこれに違反すると1回目は2年間、2回目は一生涯資格が剥奪される。

なお、アルコール、カフェインは平成16年1月1日より緩和されモニタリング項目とされる。

【学校環境衛生・薬事衛生研究協議会 給食部会】

愛知県学校薬剤師会理事 杉本 匡

学校給食部会について報告させていただきます。

テーマ1では、本年3月に一部改訂が行われた「学校給食衛生管理の基準」を基に、衛生管理の取り組みは従事者一人一人の意識改革を進めることが重要なポイントとなることから、“お互いの給食施設を見合う” “みんなで取り組む”を2本柱に山口県学校栄養士会萩管内で取り組まれた「研究授業方式による衛生管理研修会」の具体的な成果についての紹介があり、今後この研修会で得た知識や経験を科学的に裏付けするマニュアルの作成を行うこと等から、作業の合理化・確実にゆとりのある作業を進めることで「安全でおいしい給食」につなげたいと発表された。



テーマ2は愛知県学校薬剤師会の本全勝彦理事が「食器洗浄の現場検査法の検証 ～脂肪性残留物検査法に用いる試薬を中心に～」について発表されました。食器洗浄の検査法のうち、特に脂肪性残留物の検査で用いられる試薬には従来様々な色素が用いられてきたが、検査後食器を再利用する場合については“食器を食品の一部”と考え、使用する試薬（化学物質）についてメーカーの安全性データシート等だけで判断せず、しっかりと安全性のチェック（TOXNETなど）が求められること。また、

現在一般的に使用されているクルクミン法は色素が落ちにくかったり、紫外線照射が必要なことから食品として市販されている“ターメリック”“パプリカ”等を使用して簡易に検査する方法等が紹介された。

上記発表に対しては活発な質疑応答があり、最後に茨城県教育庁保健体育課主査 菊池一夫氏、日本学校薬剤師会常務理事 友成正孝氏の指導助言・講評を得て全日程を終了した。

